

## 【原子力ワンプoint】広く利用されている放射線

### (137) 放射線の健康影響－東京都民と福島県民で認識にズレ(その4)

本コラム(その1)(その2)(その3)では、三菱総合研究所が、東京都民を対象にして行った「福島県の復興状況や放射線の健康影響」に係る意識調査の結果を紹介しました。この調査の約半年後、福島の正しい現状を知ってもらうために、東京・渋谷区にある国連大学で2018年2月10日、有効な情報発信のあり方について議論する催し「アップデートふくしま」が、同大学と環境省共催の下で開かれました。一体、どんな議論がなされたのでしょうか。今回はその内容を探ってみましょう。

**ゆりちゃん:**最初に、「アップデートふくしま」実行委員会のメンバーと、環境省が共催した理由を教えてください。

**タクさん:**「アップデートふくしま」は、東京大学名誉教授の早野龍五氏をはじめ、2011年3月の福島第一原子力発電所事故以来、福島に関する情報発信などの理解活動に尽力してきた東京慈恵会医科大学講師の越智小枝氏、福島大学助教のウィリアム・マクマイケル氏、立命館大学准教授の開沼博氏が実行委員となって、環境省と国連大学の共催で行われたものです。環境省は2017年12月25日、報道機関への発表資料で、「福島の環境回復が進んでいる一方、その現状に関して全国・海外の人々に正確な情報が伝わっていないことなどから風評問題が生じています。このため、今後の福島の現状に関する情報発信に必要な視点や有効な手法などを議論し、共有する機会として、環境省は『アップデートふくしま』を共催いたします<sup>i)</sup>」と説明しています。

**ゆりちゃん:**国連大学が、「アップデートふくしま」を共催した理由は何ですか？

**タクさん:**国連大学は通称で、正式な名称は「国際連合大学」です。文部科学省は、「国連大学は、我が国に本部を置く唯一の国連機関で、国連とその加盟国にとって重要かつ緊急な地球規模の諸問題の解決に、調査研究と研修等の能力育成事業を通じて貢献してきました。今後は、こうした成果を踏まえ、日本を含む世界のトップクラスの大学との連携を通じて、人材育成にも取り組んでいく予定です<sup>ii)</sup>」と解説しています。福島第一原子力発電所事故は、まさに重要かつ緊急な対応が求められる地球規模の問題です。復興に向かって努力している福島の姿を、広く国内外の人たちに正しく知ってもらう上で、「国連大学の共催を得る効果は大きい」と言えるでしょう。

**ゆりちゃん:**「アップデートふくしま」のプログラムはどうなっていたのですか？

**タクさん:**表1を見てください。プログラムは三部構成で、第一章ディスカッション「福島の今を考える～理論編～」、第二章プレゼンテーション「福島の今がどのように伝わっているか～事例編～」、第三章パネルディスカッション「知って応援。伝えて応援。～総括編～」から成っています。本コラムでは、第一章に的を絞って解説する予定ですが、今回はまず、第一章の概要を紹介します。第一章ディスカッションでは、ファシリテータ(調整役)としての開沼氏は、「これまで『福島の今』について語ろうとすると、専門家が難しい言葉で語り、理解できる人と理解しにくい人との溝が埋まらないという問題がありました。今回の『アップデートふくしま』は、いわば『誰にでも読める本』のようなイメージで開催します。まず

<sup>i)</sup> <https://www.env.go.jp/press/104970.html>

<sup>ii)</sup> [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/unu/04090301.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/unu/04090301.htm)

は、『どんなアップデートが、誰に、どこで必要なのか?』(考えてみたい)。たとえば、福島では、双葉町と浪江町に復興記念公園を作ろうとしています。しかし、東京の人たちにとって今必要な『福島のアップデート』とは、そういった建物や制度を新たにつくることではないかもしれません。東京の人たちにとっては、むしろ『福島のイメージをアップデート』することの方が必要なのではないのでしょうか<sup>iii</sup>』と聴衆に話しかけていました。

**ゆりちゃん**：ほかの3名のパネリストの方たちは、どんな気持ちで臨まれたのですか？

**タクさん**：当日「アップデートふくしま」で配布された資料を見ればわかりますよ<sup>iv</sup>。マクマイケル氏は、「海外から『福島』がどう見られているか、どう誤解されているか？世界中の人が『福島』への偏見を抱いているとした場合、海外や国内で出会う外国人から、『福島』についてどのようなことをよく聞かれるのか、または『福島』を分かってもらうためにこれだけは説明しようという事柄はどんなものなのかを考え、共有することが重要なのではないのでしょうか」と言います。越智氏は、「災害は決して特殊な事態ではありません。また、福島で見られた様々な問題、たとえば避難生活や避難行動による健康被害や差別・偏見の問題などは、日本国内だけでなく世界中の被災地にも共通する問題です。この7年の間に福島が学んできたことは、災害大国日本に暮らす全ての人にとって大切な知恵だと思います。今福島県内外のギャップを埋めるためには、そんな福島のことを知らないと損をするという認識に立って、皆さんが自分事として福島を考えることが鍵だと思っています」と言います。また、早野氏は、「震災から今までは、マイナスをゼロに戻すような作業の連続でした。これからは、できるだけ、未来に向かってゼロからプラスになるようなことをしていきたい。特に、今後社会に出ていく若い人たちに投資するような活動をすることで、将来大きな力になるような、道を示してあげたいなと思っています」と言います。パネリストの方たちは、強い思いを持って第一章のディスカッションに臨まれていたのですね。次回は、ディスカッションの内容を詳しく分析してみましょう。

(原産協会・人材育成部)

---

<sup>iii</sup> [https://synodos.jp/fukushima\\_report/21608](https://synodos.jp/fukushima_report/21608)

<sup>iv</sup> [http://josen.env.go.jp/movie\\_event/pdf/update\\_fukushima1802.pdf](http://josen.env.go.jp/movie_event/pdf/update_fukushima1802.pdf)

表1. 「アップデートふくしま」プログラム

日時：2018年2月10日(土)13:00～17:00 (開場12時30分)

会場：国連大学 (東京都渋谷区神宮前 5-53-70) ウ・タント国際会議場

13:00～13:05	開会挨拶	竹本和彦 (国連大学サステイナビリティ高等研究所所長)
13:05 ～ 14:25	第一章ディスカッション 「福島の今を考える～理論編～」	アップデートふくしま実行委員4名 ・早野龍五 (東京大学名誉教授) ・越智小枝 (東京慈恵会医科大学講師) ・ウィリアム・マクマイケル (福島大学助教) ・開沼 博 (立命館大学准教授)
14:40 ～ 15:50	第二章プレゼンテーション 「福島の今がどのように伝わっているか～事例編～」	<プレゼンテーション登壇者> ・ウィリアム・マクマイケル (福島大学助教) ・ビクラム・チャンナ (ディスカバリー・チャンネル クリエイティブチーフ) ・伊藤 明 (テレビユー福島編成局チーフプロデューサー)、小松理度 (プルタナティブスペース「UDOK.」主宰)、元木 寛 (ワンダーファーム代表) ・早野龍五 (東京大学名誉教授)、沖野峻也・荒帆乃夏 (2名とも福島高等学校2年)、遠藤 瞭 (ふたば未来学園高等学校2年)
16:10 ～ 17:10	第三章パネルディスカッション 「知って応援。伝えて応援。～総括編～」	<パネルディスカッション登壇者> ・アップデートふくしま実行委員4名 ・原 尚志 (福島高等学校教諭)、南郷市平 (ふたば未来学園高等学校 副校長) ・森本英香 (環境省 環境事務次官)

総合司会：高橋 万里恵 (フリーアナウンサー：TOKYO FM パーソナリティー)